

PRIMERGY RX200 S5

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本紙では、セットアップの基本的な流れを説明しています。

本紙をご覧になり、本製品を使用する準備をしてください。本紙に記載されていない項目や詳しい手順については、関連するマニュアルをご覧ください。

本製品のマニュアルについて

本製品には、次のマニュアルが添付／公開されています。必要に応じてお読みください。

紙マニュアル（本製品に添付）

はじめにお読みください 本紙

梱包物一覧 本製品の箱に梱包されている添付品の一覧

安全上のご注意／サポート & サービス 本製品を安全にお使いいただくための注意事項、サポート情報

PRIMERGY スタートアップディスク

ユーザーズガイド 本製品の取り扱いや運用と保守、トラブルシューティング

ソフトウェアガイド OS のインストール方法や添付ソフトウェアの説明

LAN ドライバ V13.4 ユーザーズガイド LAN ドライバのインストール方法や詳細設定の説明

ServerView Suite 関連マニュアル サーバの監視を行うための設定や操作を分冊で説明

REMCS 運用ガイド REMCS エージェントの使用方法

リモートマネジメントコントローラユーザーズガイド リモートマネジメントコントローラの使用方法的説明

環境設定シート ハードウェアの構成情報、設定情報を記録するシート

アレイコントローラドキュメント & ツール CD

Integrated Mirroring SAS ユーザーズガイド SAS コントローラカード使用時のアレイに関する説明

MegaRAID SAS ユーザーズガイド SAS アレイコントローラカード使用時のアレイに関する説明

「PRIMERGY」ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>) にて公開

上記マニュアルの最新版 「マニュアル」をクリック

システム構成や対応オプションの確認 「システム構成図」をクリック

1 作業をはじめる前に

■ 梱包物を確認する

『梱包物一覧』をご覧になり、梱包物がすべてそろっているか確認してください。カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『保証書』（『構成品一覧』が添付されている場合は『構成品一覧』）をご確認ください。

■ 『安全上のご注意』を確認する

添付の『安全上のご注意』には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に取り扱ってください。また、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

2 内蔵オプションを取り付ける

内蔵オプションを別途ご購入された場合は、OSをインストールする前に取り付けます。ただし、カスタムメイドサービスをご利用の場合は内蔵オプションの取り付けは不要です。「■ OSインストール前の留意事項」のみ確認してください。

■ OS インストール前の留意事項

次のオプションを使用する場合は、OSインストール前に留意事項があります。

・ USB 接続機器（一部除く）

フロッピーディスクドライブ、DVDドライブ、マウス、キーボード以外のUSB接続機器は、OSインストール後に取り付けてください。

・ PRIMERGY SX35

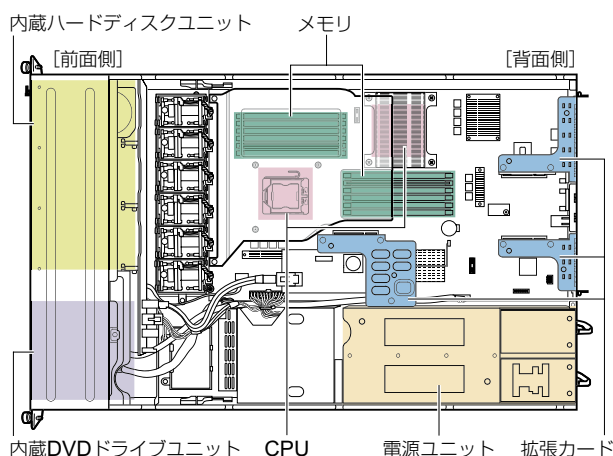
PRIMERGY SX35 に搭載しているハードディスクユニットでアレイ構成済みの場合、アレイ構成を削除してください。OSインストール後に再度アレイを構成してください。なお、アレイ構成の削除によりデータも失われますので、データが存在する場合は必要に応じてバックアップを行ってください。

・ ETERNUS などの外付けストレージシステム

OSのインストールが終了するまで電源を入れないでください。

■ 内蔵オプションの種類と取り付け位置

🔍 ユーザーズガイド ▶▶ 「第2章 内蔵オプションの取り付け」



内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

3 本製品を設置する

必要な設置スペース、設置場所の条件を確認して、サーバを設置してください。

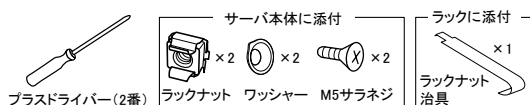
■ 設置条件について

本製品は、ラックに搭載して使用します。ラックの設置および取り扱いについては、ラックに添付のマニュアルをご覧ください。本製品の設置の条件については、『安全上のご注意』をご覧ください。

- ・ほこりの多い環境においては、短い期間でサーバ前面および背面部にほこりが付着します。故障の原因となりますので、設置場所を変更されることをお勧めします。
- ・本製品の騒音値は、実測値で約 50dB です。専門室での設置を推奨します。オフィスへの設置の際には、十分注意願います。
- ・ラックは必ず固定し、転倒防止用スタビライザを取り付けてください。

■ 用意するもの

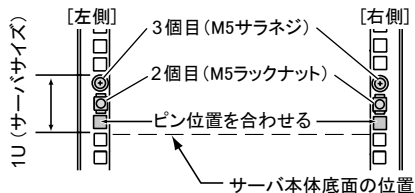
次のものを用意してください。



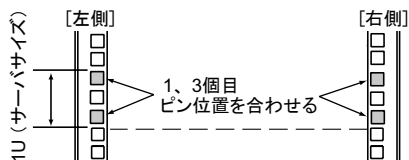
■ ラックへの搭載

1 スライドレールとラックナットの取り付け位置を確認します。

[ラック支柱前面]



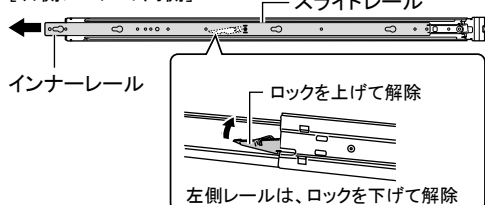
[ラック支柱背面]



2 スライドレールを準備します。

1. スライドレールの左右を確認します。
ラック支柱に向かって右側のレールには「RIGHT」、左側のレールには「LEFT」の表示があります。
2. スライドレールからインナーレールを取り外します。

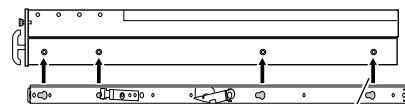
[右側レールの内側]



3 サーバ本体にインナーレールを取り付けます。

1. インナーレールの取り付け穴にサーバ本体側面のネジ位置を合わせてはめ込みます。

[本体右側面]



2. インナーレールを後方にスライドさせて固定します。



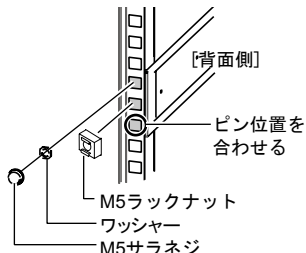
4 スライドレールとラックナットをラックに取り付けます。

1. ラックナットは、ラックナット治具を使って、ラック支柱前面の内側からツメを上下に引っ掛けて取り付けます。

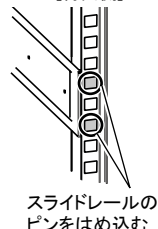


2. スライドレール背面側のピンを、背面側のラック支柱にはめ込みます。
3. スライドレール前面側のネジ位置をラックに合わせ、サラネジ、ワッシャーとともに取り付けます。

[前面側]



[背面側]

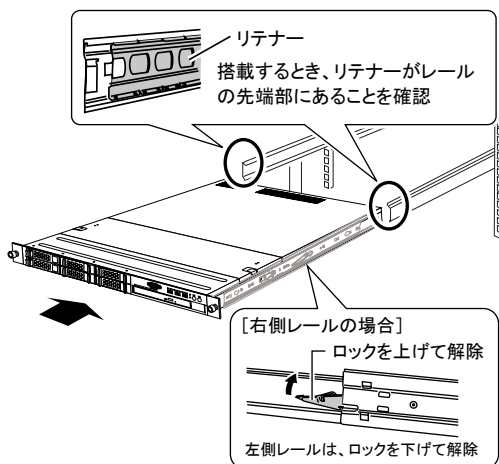


5 サーバ本体をラックに搭載します。

1. スライドレールの溝に、サーバ本体に取り付けたインナーレールがまっすぐに収まるように取り付けます。

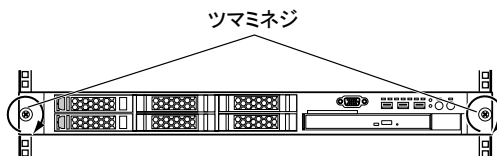
- ・インナーレールを取り付けるとき、リテナーに正しく取り付けられていることを確認してください。
- ・スライドレールにインナーレールを無理に押し込まないでください。インナーレールの金具が変形し、レールが正常に動作しなくなるおそれがあります。

2. インナーレールの左右のロックを解除して（右側は上げて、左側は下げる）、サーバ本体をゆっくりと後方にスライドさせてラックに搭載します。



6 動作を確認し、サーバ本体とラックを固定します。

1. サーバ本体をラックから数回出し入れして、左右のロック機能および、スライドの動作に問題がないことを確認します。
サーバ本体をスライドさせる場合や、元に戻す場合は、十分注意してください。指や服が挟まれて、けがをすることがあります。
2. サーバ本体とラックを固定します。



サーバ本体や周辺機器が搭載されていない場所には、ラックにブランクパネルを取り付けてください。

4 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける

周辺装置の接続を行う前に、添付のタグラベルを各ケーブルに貼り付けます。タグラベルを貼り付けることによってケーブルの識別が容易になり、ケーブルの接続ミスなどの事故を防止できます。

■ 記入例

タグラベルは、ケーブル両側のコネクタに近い位置にそれぞれ 1 枚ずつ使用します。次の記入例を参考にして、各内容を記入してください。

↓ サーバ側

元	RX200 S5	COM #1
先	UPS-01	COM #1

接続元のサーバ名を記入します。

タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

接続先のコネクタ名／切替機名／識別名／タップ名／コンセント名などを記入します。
タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

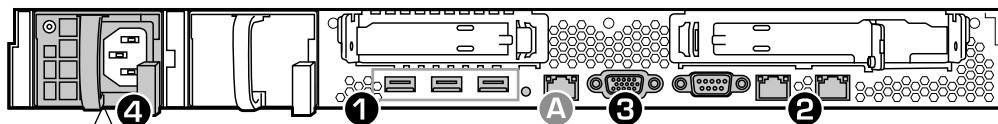
■ 貼り付け方

ケーブルのコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルを巻きつけるように貼り合わせてください。



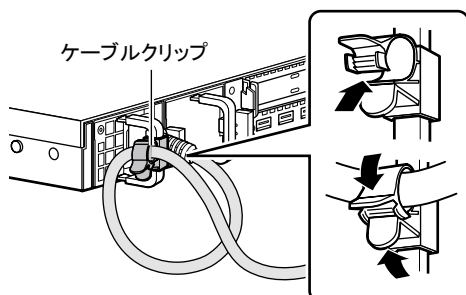
5 各種ケーブルを接続する

サーバ本体に、キーボードやマウスなどの周辺装置を次の順番で接続します。サーバ本体をラックから引き出して作業することを考慮し、余裕をもたせた配線を行ってください。



■ 電源ケーブルの固定

電源ケーブルをサーバ本体に接続後、電源ケーブルが抜け落ちることを防止するため、下の図のように、電源ユニットの取っ手に添付のケーブルクリップに、電源ケーブルを通して、コネクタから10cm程度余裕をもたせて固定してください。なお、本体の電源ケーブルを抜くときは、必ず本体側の電源コネクタを抜いてください。

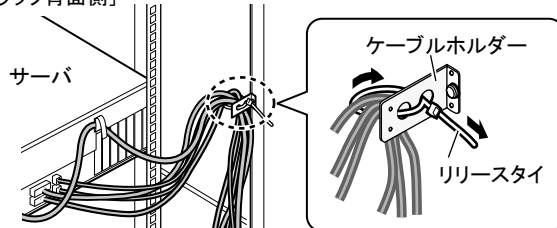


- ① キーボード、マウス、
DVDドライブ(内蔵DVD搭載の場合は不要)
 - ② LANケーブル
 - ③ ディスプレイ
 - ④ 電源ケーブル
- A Management LANポート
詳しくは『ユーザーズガイド』をご覧ください。

■ ケーブルのフォーミング

すべてのケーブルを接続後、リリースタイを使用して、各種ケーブルをまとめてラック背面側のケーブルホルダーに固定します。

[ラック背面側]



6 OS をインストールする

ServerView Installation Managerのクイックモードを使用して OSをインストールします。クイックモード以外のインストール方法については『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

- ・クイックモードでは、Windows Server 2008 はフルインストールされます。Server Core インストールを行う場合は、ガイドモードでインストールしてください。
- ・Windows Server 2003 の場合、自動的に Service Pack 2 がインストールされます。
- ・Linux をインストールする場合は、OS をインストールする前にインストール CD を作成する必要があります。作成方法については、『ソフトウェアガイド』の「5.1 インストール CD の作成」をご覧ください。
- ・アレイを構成する場合、OS インストール先のロジカルドライブサイズが 2TB 以上のときはインストールに失敗します。あらかじめ RAID ユティリティを使用して OS インストール先のロジカルドライブを 2TB 以下でアレイを構成してください。使用する RAID ユティリティはご使用のアレイコントローラで異なります。詳しくは『ソフトウェアガイド』の「2.3.1 アレイを構成するときの留意事項」をご覧ください。

■ Linux インストール代行サービスバンドルタイプをご購入の場合

あらかじめインストール済みです。運用前に、システム環境、必要な設定について確認してください。詳しくは『ソフトウェアガイド』の「付録」をご覧ください。

root パスワードについて

ご購入時の root パスワード（管理者パスワード）は次のとおりです。

jW%m9zPn

セキュリティのため、パスワードは必ず変更してください。パスワードの変更方法については『ソフトウェアガイド』の「第 6 章 Linux インストール後の操作」をご覧ください。

■ OS のインストール

1 サーバの電源を入れてすぐに PRIMERGY スタートアップディスクをセットします。

ServerView Installation Manager が起動し、コンフィグレーションファイルの格納先を選択する画面が表示されます。

2 「RAM ディスク」を選択し、「次へ」をクリックします。

ServerView Installation Manager の初期化処理が終了すると、「ようこそ ServerView Installation Manager へ」画面が表示されます。

3 「Deployment」をクリックします。

「Installation Manager Deployment Process Selection」画面が表示されます。

4 「クイックモード」を選択し、「次へ」をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

5 インストールする OS を選択し、「次へ」をクリックします。

Windows Server 2003 R2 の場合、Service Pack 2 適用済媒体を使用するときのみ、「ServicePack 2」を指定してください。添付のインストールディスクには Service Pack 2 は適用されていません。「ServicePack 1」を選択してください。

「RAID とディスクの構成」画面が表示されます。

6 RAID とディスクの構成を設定し、「次へ」をクリックします。

- 新規にアレイを構成する場合
「RAID コントローラ 0」を選択し、次に「新規に RAID を構成する」を選択します。
設定に関する詳細は『ソフトウェアガイド』をご覧ください。
- アレイを構成しない、または構成済みアレイ環境を残す場合
「RAID コントローラ 0」を選択し、「ロジカルドライブ 0」を選択します。

「(OS) の設定」画面が表示されます。

7 インストールする OS の情報を設定し、「次へ」をクリックします。

Windows インストールタイプ／バンドルタイプに添付のインストールディスクでインストールをお使いの場合は、「プロダクトキー」は入力しないでください。

「インストール情報」画面が表示されます。

8 設定内容を確認し、「インストール開始」をクリックします。

「ServerView Installation Manager インストールモード」画面が表示されます。

9 「開始」をクリックします。

OS のインストールが開始されます。メッセージに従って、操作してください。

Windows Server 2003 R2 Service Pack 2 適用済 OS を選択した場合、Service Pack CD をセットするようメッセージが表示されたら、CD-ROM をセットせずに「キャンセル」をクリックしてください。

10 再起動の確認メッセージが表示されたら、「再起動する」をクリックします。

再起動後、高信頼ツールのインストールが自動で行われます。

11 インストール完了メッセージが表示されたら、システムを再起動します。

RHEL4.7 をインストールした場合は、カーネルアップデートを行ってください。詳細は『ソフトウェアガイド』の「5.3 カーネルのアップデート」をご覧ください。

7 OSインストール後の操作

OSインストール後、運用を開始する前に必要な設定を行ってください。

■ オプション装置の取り付け

サーバの電源を切り、「2 内蔵オプションを取り付ける」で取り付けなかったオプション装置を取り付けます。

◎ **ユーザーガイド** ▶▶「第2章 内蔵オプションの取り付け」



故障

電源を切った後、再び電源を入れるときは、10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。すぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

■ 高信頼ツールの設定

高信頼ツールを有効にするため、次の設定を行ってください。

◎ **ソフトウェアガイド** ▶▶

Windows の場合:「第4章 Windows インストール後の操作」

Linux の場合:「第6章 Linux インストール後の操作」

☐ ServerView Operations Manager / ServerView エージェントの設定

サーバを監視するための設定が必要です。

☐ ServerView RAID の設定

次の設定が必要です。

・アレイ管理アカウントの設定

ServerView RAID を使用するには管理者用のアカウントが必要です。「raid-adm」というグループを作成し、グループ内にアレイ管理者用の任意のユーザアカウントを作成してください。

・HDD チェックスケジューラの設定

SAS アレイコントローラカード (MegaRAID SAS) をお使いの場合、初期状態で毎日 12:00 に設定されています。運用に応じて変更してください。

・バッテリーリキャリブレーションの設定

SAS アレイコントローラカード (MegaRAID SAS) でバッテリーバックアップユニットを接続してお使いの場合、初期状態で毎月 1 日の 11:00 に設定されています。運用に応じて変更してください。

☐ REMCS エージェントの設定

REMCS センタとの接続設定が必要です。

☐ PROBEPRO 動作環境の定義

Windows Server 2003 の場合のみ設定が必要です。

■ BIOS の設定

運用に応じて必要な BIOS 設定を行います。

◎ **ユーザーガイド** ▶▶「第3章 ハードウェアの設定」

☐ 運用に応じた BIOS 設定

オプション装置を搭載したときは BIOS 設定が必要な場合があります。

☐ BIOS パスワードの設定

セキュリティのため、BIOS パスワードを設定してください。

■ 障害発生に備えて

障害発生時の対策、および早期復旧のために、次の対策をしてください。

Windows の場合

◎ **ソフトウェアガイド** ▶▶「第4章 Windows インストール後の操作」

☐ メモリダンプの設定

☐ システム修復のためのバックアップデータ作成

Linux の場合

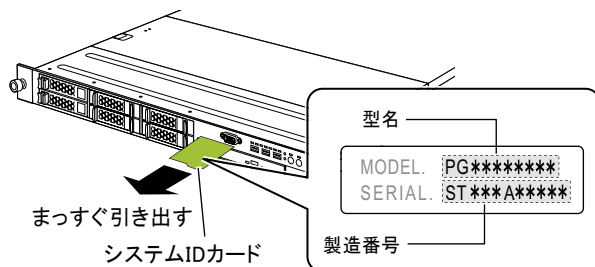
◎ **ソフトウェアガイド** ▶▶「第6章 Linux インストール後の操作」

☐ メモリダンプの設定

Windows / Linux 共通

☐ 型名、製造番号の確認

修理相談窓口に連絡の際に必要です。サーバ本体前面のシステム ID カードをご確認ください。



使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。

2. バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。

3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4. 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。

(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5. 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。

6. 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7. 保証の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 1 ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

8. ハイセイフティ

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Adobe、Adobe Acrobat、Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2009